



No.458

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
TEL・052-731-0780
FAX・052-732-5298
E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2014 3-4 月号

【OB講演会】学生就職支援事業
社会人を目指すみなさんへ
私の歩んできた道

【交流コーナー】
第5回 仙台国際音楽コンクール
タイを想う

【研究者紹介】
未利用資源の活用—火山灰—
移動物体追跡技術に関する研究

【紀行】
スイス連邦工科大学・建設材料研究室に滞在して

【ホットライン】
平成25年度国際化推進事業について
平成25年度課外活動活性化経費授与式

【学生コーナー】
勝健太さん 若手優秀賞受賞
ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞受賞
研究室の旅 早川研究室
部活の扉 第24回『アイスホッケー部』

【新聞記事コーナー】
外国人留学生ビデオの発表会を開催

【名工大の新技术】
安心安全を産む刀具開発
光照射による3次元還元
シミュレーション先行で優れた材料を探す

【情報ネットワーク】
支部報告・会員ニュース



一般社団法人 名古屋工業会

平成26年度 定期総会及び会員総会のご案内

記

と き	平成26年5月24日（土）
と ち ろ	中日パレス（中日ビル5F） 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 TEL 052（261）8851
定 期 総 会	12：30～14：00 コスモス （定期総会は代議員のみの総会です。）
会 員 総 会	14：00～15：00 クラウンホール
特 別 講 演	15：30～16：45 ”
懇 親 会	17：00～19：00 エンゼル ※懇親会費 5,000円（当日受付へお支払いください）

〔定期総会〕

（決議事項）

- 第1号議案 平成25年度事業報告及び収支決算報告
- 第2号議案 平成26年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 理事の選任
- 第4号議案 その他

〔会員総会〕

（1）定期総会（代議員のみの総会）での決議事項報告

（2）行事

- イ．叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈
- ロ．母校退職教職員への感謝状と記念品贈呈
- ハ．卒業満70年(S19年卒)、60年(S29年卒)、50年(S39年卒)、40年(S49年卒)の
正会員への記念品贈呈
（↑会員総会の出欠ハガキを返信された方に限る）
- ニ．特別講演 講師：株式会社山下設計 代表取締役社長
田中孝典 氏（A45）
演題：「設計者から見た 建設業界の真実」

表紙写真説明

「祝福の春！」（奈良 長谷寺）

撮影者 安村隆志（W①）

OB講演会

(学生就職支援事業)

名古屋工業会は11月6日、名古屋工業大学において、平成25年度就職ガイダンスとしてOB講演会を名古屋工業大学と共催した。

名古屋工業会の水谷尚美連携強化委員長の司会で、山下啓司キャリアサポートオフィス長の開会挨拶の後、トヨタ自動車株式会社材料技術開発部長 村松正隆氏（W56、院W58）が「社会人を目指すみなさんへ」、ブラザー工業株式会社ソフトウェア第2開発部長 赤尾通敏氏（F59）が「私の歩んできた道～開発一筋30年～」と題して、ご自身の就職活動から入社して現在に至るまでの仕事への取り組み方を紹介しながら、社会人として求められる要素を語っていた。入社および就職活動を間近に控えた学生たちが熱心に聴講した。

最後に、名古屋工業会の篠田陽史理事長から「20代で就職して65歳まで働く皆さんにとって、本日の講演は金言となるでしょう」と閉会挨拶があり、講演会を終了した。講演の概要は次のとおり。

村松正隆氏ご講演

社会人を目指すみなさんへ

～皆さんは今から何をすれば良いか？～

就職活動の始まり、社会人まで1年半、

そして数十年間の社会人

トヨタ自動車(株)に入社し、今年で勤続30年になりました。その間、自動車用塗装開発を20年、HV用電池開発を7年、そして現在は金属・無機・有機等の材料開発と一貫して自動車用の材料・部品開発に携わってきました。その間に採用面接や多くの新人の受入れも経験しました。

今日、これらの経験を生かし、皆さんが今から何をしたら良いか？について話をさせていただきます。本日の内容は次の5項目です。

1. 社会人になるとは？
2. どうやって会社を選ぶ？
3. 面接そして社会人への準備
4. まとめ
5. 補足

ただし、今日、話をする内容は就職活動のノウハウではありませんし、一夜漬けでできることでもありません。今日から皆さんが習慣にして、意識して行動ができるようになれば社会人になってからも必ず役に立つのではと思います。

1. 社会人になるとは？

社会人には学生以上に厳しいルールや規律があります。まずは朝早く起きて規則正しい生活をする。職場の上下関係や仕事上の取引もあり、礼儀正しく挨拶ができ敬語も使える事が重要です。皆さんの身近にいる社会人を観察したり、話を聞いたりして、社会人の生活を理解してください。

次に皆さんは長かった学生生活が終わり、社会人としての生活が始まります。一度皆さんの気持ちをリセットし、社会人としての生活が“0”から始まると理解してください。学生時代にやってきた事は基礎学力として役に立ちますが、皆さんは社会人の経験はなく、仕事ができるかどうかは未知の状態です。自分の気持ちをリセットする事で新しいことを素直に受け入れたり、わからない事を正直に聞く事ができ、精神的にも安定した社会人生活が過ごせると思います。

2. どうやって会社を選ぶ？

会社を選ぶ最優先事項は「自分の好きな事は何か？」です。「自分が心地よく思える状態」「これをしていたら夢中になれる事」は何ですか？それをしっかりと見つけてください。

人間の行動のモチベーションは①生理的欲求②報酬と賞罰③満足感・学習意欲・達成感と言われています。我々技術屋は報酬も意識はしますが、最も重要な事は③満足感・学習意欲・達成感だと思います。仕事では厳しく辛い事が多いですが、好きな仕事であれば頑張れるものだし、成功したときの満足感・達成感は非常に大きくなります。例えば、トヨタ自動車(株)を希望

する人は、まずは車に触れていたら楽しい人。私の場合は多くの人の力を結集し、皆で悩み、考えながら高い目標の開発を成し遂げる事に喜び・楽しさを感じます。この実現のために当社はぴったりでした。

会社説明や面接の際に皆さんは「この会社で自分は夢中になれるのか?」「自己成長や達成感を感じる事ができる会社か?」を見極めて選んでください。

3. 面接そして社会人への準備

ここに当社の自己紹介書（履歴書）を示します（*当社ホームページ等を参照ください）。さて、この自己紹介書を通して何を聞こう、知ろうとしているのでしょうか？

それは皆さんのポテンシャル（潜在能力）です。ポテンシャルとは「観察力」「洞察力」と言った「課題に気づく力」。「分析力」「創造力」と言った「課題解決方法を考える力」そして「コミュニケーション力」や「実行力」です。

これまでの面接の中で当社を志望する理由として、当社のホームページや書籍にある内容を羅列したり、環境対応の仕事がしたいからと世界で起こっている環境問題を話したりする例があります。知識としてこれらは必要ではありますが、これだけでは、皆さんのポテンシャルについては全く言及していません。主語は皆さんでなければいけません。

では、どうやって考えたら良いかのヒントをお話します。一つの参考として当社の問題解決手法があります。これについては多くの書籍もあるので参考にしてください。この手法の基本はPlan→Do→Check→Actionを繰り返し進めること。「なぜ」「なぜ」を5回繰り返すと真因がわかることです。

この手法に基づいて、まずは自分の過去を思い出してください。例えば、居酒屋でバイトをしていたとします。「なぜ居酒屋でバイトをしたのか?」「その中で何を考えて、何をしたのか?」「そして何を成ることができたか?」実際には皆さんは色んな事に気づき、考えて行動しているはずです。それをシンプルに整理を試みたら、自分の「観察力」や「創造力」「行動力」等々を具体的に示すことができるはずです。

そして今後の思考・行動は必ずこのロジッ

クで考えてみてください。「何のためにやるのか?」「何を目標にするのか?」「目標達成のための手段・戦略は?」そして最も重要な事はそれを考えたり調べたりするだけではなく、行動し、実感することです。車の仕事がしたいのなら、色々な車に乗って、感じて自分の言葉で感想や意見が言えること。環境問題に興味があるなら、モルディブ諸島（最高海拔2.4mで1m水位が上がると国土の80%が消失すると言われてる）や北京へ行ってその状況を自分で感じてみる。そのぐらいの行動力が必要です。そうする事で、初めて自分の言葉で自分の思いが話せるようになります。

4. まとめ

以上をまとめると、

①社会人になる練習を始めましょう。

社会人の生活とは？適応するためには何が必要か？

②自己分析（自分の欲求や満足感）を客観的にやってみましょう。

自分の達成感や満足感はどのような時に感じられるか？

③自分の思考を整理し、そして行動してみましょう。

Plan→Do→Check→Actionを意識して、特に行動をしてみましょう。

5. 補足

厳しい話をしてきましたが、社会人の生活には大きな楽しみもあります。私はトヨタ自動車に入社して、社内外の多くの人達と一緒に頑張って幾つかの開発に成功し、お客様にその商品に乗って頂くことができました。関係者とその感動を分かち合ったり、その車を実際に街中で見て子供達に「お父さんが皆と頑張った製品だよ」と話ができることが、技術屋にとって最大の喜びだと思います。

また、社会には上には上にすごい人がたくさんいて、常に色々な事を教わり、自己成長を感じる事ができます。

最後になりますが、常に人間力を磨き、厳しさを乗り越えて楽しい社会人生活を送りましょう。皆さんの健闘と今後の活躍を期待しています。



村松正隆氏の略歴

1981年	名古屋工業大学繊維高分子工学科卒業
1983年	名古屋工業大学大学院修士課程 繊維高分子工学専攻修了
1983年	トヨタ自動車(株)入社
2001年	材料技術部塗装設計室長
2003年	材料技術部開発室長
2006年	HV材料技術部長
2010年	金属・無機材料技術部長
2013年	材料技術開発部長

赤尾通敏氏ご講演

私の歩んできた道

～開発一筋30年～

学生時代から現在に至るまでの自分のキャリアを見直してみると、その時々ではただ一生懸命やっていただけだと思っていましたが、後から考えると仕事を行う上で大切なことがいくつかあったと気づきました。私の約30年間の社会人としてのキャリアにおいて、「自分が何をしてきたのか、その時何を考え行動していたのか、そして何が良かったのか」ということを振り返り、社会人として大切だと感じることを挙げてみました。少しでも皆さんの進路の参考になれば幸いです。

学生時代…アルバイト、就職活動

大学時代のアルバイトは家庭教師、接客業などいろいろな経験しましたが、製造現場でのアルバイトは、体力的にはきつかったですが勉強になりました。

夏休みだけですが3年間、プラスチック成形

の工場で働きました。軍手を二重・三重にはめて、熱せられた金型の中から成形品を取り出すのですが、ふと気を緩めた時などに腕が金型に触ることがあり、火傷が絶えませんでした。ミスをした時は自分が痛い目に合うだけではなく、不良品を作ってしまうことになります。不良品は後工程のベテランの方たちが一生懸命削ったり磨いたりして、良品にしようとしてくれるのですが、回復できない場合は廃却です。自分のミスで他の人の時間やお金を失ってしまう、ということを肝に銘じました。

4年の夏休みは清涼飲料の自動販売機の組み立て工場で働きました。自動販売機の外枠に大物部品をネジ締めする工程を担当しましたが、部品は大きく重く、一日に何百か所とネジ締めしていると握力もなくなってきました。また、ライン生産ですので、製品はどんどん流れてきます。一定時間内に仕事をこなさないと、そこでラインが止まってしまうので、トイレに行くときも手を挙げて他の人に代わってもらってからしか行かせてもらえませんでした。

入社してから工場実習がある会社もたくさんあると思いますが、実際の製造現場がどうなっていて、何に気を付けて組み立てているか、といったモノ創り現場を体験できたことは、実際に製品を設計するようになってから大いに役立ちました。

私の就職活動ですが、モノ創りに関わることでできる職業に就きたい、というのが基本でした。それも自動車や飛行機のような大型の製品ではなく、製品全体の設計に関わることでできる家電や事務機のような身近な製品開発をやりたいという気持ちがあり、候補を絞りました。その中からブラザー工業を選んだのは、丁度1980年代は電子タイプライターやコンピューターミシンなど、メカから電子制御への移行時期であり、ソフトウェアがこれから重要になると思ったこと、それからあまり大きな会社ではなく、自由度が高くやりたいことが出来そうだと感じたことでした。結果、学校推薦をいただくことができ、一社面接に行っただけであっさりと内定が決まってしまいました。

今の就活状況から考えるとあまり参考にならないかもしれませんが、それでも好きなモノ・好きなコトを仕事に選ぶようにしてください。

これから多くの時間を仕事して過ごすことになりますので、自分の幸せのためにも仕事を好きになってほしいと思います。

20代…メカトロニクス

入社直後に担当した製品は、デジタイザという電子タイプライターでした。開発チームは、私以外はみんなメカという編成で、電子・ソフトを一人でやることになっていました。新人で何もわからない中、同じような製品の電子回路とプログラムを参考にして、あとは先輩方に聞き歩いて何とか動作させていました。メカ制御に関しては、自分のプログラムと電氣的波形やメカ挙動とを照らし合わせて、最適なパラメーターを決めていました。この時は、機械工学もかじりながらどんなメカニズムでモノが動いているのかを理解しようとしていました。

まずは自ら考え、行動すること、考えても分からないことはそのままにせず解決することです。またエンジニアですので、起きている現象について考えるとき、物理法則などの原理・原則を大事に考えることです。

20代半ばからはサイカラーという特殊な媒体を使用したアナログカラーコピー機を担当しました。最終製品の形態になるまでにはいろいろな試行錯誤がありましたが、その過程においては、電子・ソフトに限らず、化学の実験などもやりました。製品の形態が決まってからはソフト開発専門になりメカ制御を担当しましたが、この時はとにかく働きました。残業だけでなく、休日出勤や徹夜も多かった。熱いプロジェクトリーダーの下で、開発メンバー全員が丸となって突き進んでいる、といった感じでした。大変な苦労を共にした仲間というのは結束力も抜群で、いまでも飲み会などで会うと当時の苦労話に花が咲きます。

とにかく納期までによい品質の製品を仕上げる。そのためには、チームメンバー全員が情熱をもってやり切る。この時の働き方が自分の会社員としてのスタイルになっています。若い時の働き方がその後の仕事のスタイルを左右しますので、若いうちにたくさん苦労をした方が成長できると思います。

30代…アーキテクチャ

30代最初に担当した製品は、固形のインクを

溶かして印刷するカラープリンターです。最初はメカ制御を担当していましたが、途中からホストコンピュータからデータを受信して、印刷するデータを作り出すイメージコントローラーを担当することになりました。それまではマイコン上で動作するアセンブラ言語でプログラミングしていましたが、イメージコントローラーは、高速のマイクロプロセッサを使用し、C言語でプログラミングすることになりました。C言語は初めてですので、休日や仕事の合間に自学自習しました。

技術は日々進化していきますので、開発で使用する技術も変化していきます。プロのエンジニアならば、継続的に学習を続ける必要があります。そこで、通勤時間の使い方です。私は四日市から名古屋(堀田)まで通っていますが、電車に乗っている時間と乗り換え時間だけで、片道約60分かかります。この時間を自分の時間に使うとすると、往復で1日2時間、1か月40時間、1年間480時間、10年間で4,800時間になります。だから、会社から遠くに住みましょう、とは言いませんが、会社に入ってから自己啓発する時間は持ちましょう。読書もいいと思います。

30代半ばは、通信カラオケを担当しました。通信カラオケのソフトウェア・アーキテクチャを構築し、演奏や表示などを実行する基本ソフトウェアと、様々なカラオケに対応するアプリケーション層を分離して開発を始めました。開発が半分くらい進んだところで、アプリケーションの自由度が低いことに気づき、アーキテクチャを変更することにしましたが、今から変更するとなると完成が遅れる恐れがあります。やりたいことと日程変更を上司に相談したところ、「お客様のためになるなら是非やれ、しかし日程通りやり切る提案をしろ」というありがたいお言葉をいただき、また忙しい日々が始まることになってしまいました。

でも、自分たちが良いと思ったことはどんどん提案して、チャレンジし続けていくようになります。たとえその先に茨の道が待っていても、です。

30代後半からは、現在のブラザーの主力製品となった複合機を担当しました。ブラザーの複合機には多くのバリエーションのモデルが存在しますので、ハードウェアの依存部を吸収する

ために、組込みソフトウェアのプラットフォーム化を行いました。フルスクラッチでプラットフォームから構築できる機会はあまりありませんので、設計思想をしっかり固め、それを強固なものにするために工学的手法を用いた開発手法とツールを導入しました。この複合機のアーキテクチャを構築できたことで、複雑で規模が大きな製品でも機能や製品について全体を俯瞰する癖がついたと思います。

最近の製品はソフトウェアの規模が大きくなって分業体制になることが多いですが、そこで自分の担当している部分しか見ずに考えて設計する人が多くなってくると、どこかで辻褄が合わなくなってきました。それではダメなので、他人の担当のところまで、製品全体のことまで考えられるように全体を俯瞰して理解することが重要です。それから、自分が担当している製品の設計思想を理解し、それに則って設計するようにすると辻褄が合わなくなることが減り、全体の整合性も取れるようになります。

40代以降…マネジメント

40代以降も複合機とプリンター製品を担当しましたが、リーダー業務が多くなってきました。リーダーとしての役割となると、部外・社外や海外の方と一緒に仕事をする機会が一気に増えます。特に他の会社の人と一緒に仕事をする場合は、文化が異なる人同士が、同じ製品開発を行うことの難しさを痛感します。それを解消するのは、まめにコミュニケーションをとって理解を深めていくしかありません。

コミュニケーションは仕事の基本ですが、対外的にも部下に対しても、年とともにますます重要度は高くなっていきます。また、開発部門の管理職は、技術のマネジメントもできるように、技術動向の把握や技術戦略を策定・遂行する力を磨く必要があります。

入社以来約30年のキャリアで、結局開発設計一筋で歩んできましたが、携わってきた製品や技術、関係した人はその都度変化しています。会社がどこに力を入れているかによって、配属や業務内容は変化することがあります。その変化を楽しんで、新しい環境や仕事に心と体を適応させる力は大切です。

社会人として期待すること

これから社会人になられる皆さんに、期待していることが3つあります。

1つ目は、コミュニケーションを大切にしてください。コミュニケーションとは「相手の意見を丁寧に聴き、理解する」こと「自分の意見をわかりやすく伝える」ことですが、まずは、挨拶をしっかりとすることです。自ら挨拶する、挨拶されたら挨拶を返す、というコミュニケーションのキャッチボールを大切にしてください。

2つ目は、主体性を持って物事に当たってください。主体性を持つとは「自分の人生に対して自ら選択し、自ら責任をとるということ」です。自主性が「やるべきことを自分からやること」ととどまるのに対して、主体性は「やる／やらないという判断を含めて、状況を判断して何をするか／どうすればよいかを自分で決める」ことです。自ら考えて、迅速に行動するということが心がけてください。

3つ目は、自分で自分の枠を作らないでください。人は知らない間に自分の枠を勝手に決めて作りがちです。自分の能力、業務範囲、対人関係を広く考えて、できるだけ大きな世界で活躍できるように、自分を適応させていってください。

皆さんがそれぞれの素晴らしい道を見つけれれることを願っています。



赤尾通敏氏の略歴

1984年 名古屋工業大学計測工学科卒業

1984年 ブラザー工業(株)入社

プリンター、複合機、通信カラオケなどの製品開発業務に従事

現在：ソフトウェア第2開発部長

交流コーナー

第5回 仙台国際音楽コンクール

公益財団法人 仙台市市民文化事業団
副理事長 斎藤 文伸 (A51、院A53)

杜の都仙台で開催される仙台国際音楽コンクール。2013年の5月から6月末にかけてヴァイオリン部門とピアノ部門がそれぞれ18日間にわたって開催された。5回目となる国際音楽コンクールだが、今回は東日本大震災後初めて開催されるということで特別な大会となった。被災地は津波の被害を被ったところとそうでないところとは、復興の進み具合も雲泥の差があり、住民の意識にも大きな違いがあることは今でも変わらない。こんな時に国際音楽コンクールをしていてよいのか、本当に開催できるのか、との疑問や議論もあった。しかし、こうした時だからこそ、被災者の心を少しでも和らげる事業として、また、世界各国に仙台市は国際音楽コンクールが開催できるまでに復興したという力強いメッセージを発信することは重要なことであった。

仙台国際音楽コンクールの特徴はヴァイオリンとピアノの協奏曲を課題曲の中心に据え、オーケストラと共演してその演奏を競うところにあり、2001年以来、3年ごとに開催されている。今回は世界各地からヴァイオリン部門が14カ国114名、ピアノ部門が12カ国229名の出場者があり、予備審査を通過したヴァイオリン部門34名とピアノ部門37名の若いアーティストが仙台に集まった。コンクールのレベルの高さは周知のことで現在では世界の音楽コンクールの中でも3本の指に入るまでに成長したと言われており、



前回、第4回でヴァイオリン部門第2位のアンドレイ・バラノフが昨年のエリザベート王妃国際音楽コンクールで、同じくピアノ部門で第1位のヴァディム・ホロディンコが今年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールでそれぞれ優勝したことからわかる。今回も各国の国際音楽コンクールで活躍してきたアーティストが参加してくれた。

結果は、ヴァイオリン部門がリチャード・リン(アメリカ／台湾)、ピアノ部門はソヌ・イエゴン(韓国)がそれぞれ優勝した。共に将来の活躍を期待される豊かな才能を持ち、素晴らしい演奏だった。

そんなイベントに今回、関わる機会を得た。予備審査では出場者が録音したDVDを5日間缶詰になって審査する。課題曲を出場者数だけ聴くことになる。予選、セミファイナル、ファイナルも審査員と一緒に聴く。頭の中で訳のわからないオタマジャクシがウジャウジャ動き回っている。今回の審査員はCDに録音された演奏を何度となく聴いている憧れのアーティストばかりである。1年以上前からスケジュールを確保しなければならない多忙を極めている超一流のアーティストが仙台に来てくれた。2週間も一緒にいると恐れ多い人たちも親しみのある人になる。例えば、フェリックス・アーヨは一度、盗難に遭ったようで何億円もするヴァイオリンを一時も離さないで持っていた。40年前に買ったイムジチ合奏団のLP(ビバルディの四季)に「このLPでフィリップスは大量の金を儲けたが私はそれ程儲けなかった」等とジョークを言いながら快くサインをしてくれた。ダン・タイソンは痛風のせいで足を引きずっていたが、仙台のうまい料理とお酒を堪能できなくて残念だと言っていた。それでも、積極的に地元の学校で演奏してくれたし、自分が体験したベトナム戦争の苦い体験からこれまでも震災の被災地に何

度も足を運んでくれていた。ブルーノ・カニーノは80歳近い年齢にもかかわらず、審査のない日は毎日8時間ぐらいピアノに向かって弾いていた。まだ、誰も演奏していない曲とのことで、我々が聴いたことのない曲がたくさんあるのでそれを初演したいとのことであった。また、多くの審査員が審査以外の時間に若いアーティストの卵のために公開レッスンをしてくれた。審査員はやはりアーティストだと思ったのは、ヴァイオリンを弾いたり、ピアノに向かうとその顔つきと仕草ががらりと変わり、優しさと同時にプロとしての厳しさが醸し出される。一瞬に張り詰めた世界が作られるのを目撃した。

その中で特に印象に残った言葉がいくつかあった。

「楽譜をよく読んで、ここは何と書いてありますか。モーツァルトの演奏は残っていないので聴けないが、楽譜はあるのだから楽譜を丁寧に勉強しなさい」、「バッハは宗教音楽を作曲しているが、音楽だけで無く、その底辺にある宗教、キリスト教についての理解も必要です」、「音楽の発展の歴史と作曲家の歴史、この曲がどういう経過をたどって作曲されたのかを理解すること、現代の曲は古典やロマン派の曲を経て生まれている。作曲者はこの第5番を作曲するまでに第1番から第4番まで作曲しているのだから、第5番だけを勉強するのではなく順序立てて勉強するように」、「こここのところは200回練習しなさい。これはこの曲だけでなく別の曲でも出てくる技法なので完全にマスターするように」、「我々は音楽に奉仕しなければならない」、「楽譜には5つの音が書かれてあるのだからそれをすべて弾かなくてはならないが、ここは2音飛ばして3音だけ弾いてもよい」など、演奏技術だけでなく、哲学や思想性など各審査員の奥深くにあるものについても垣間見ることが出来た。

すべての審査員が世界各地でリサイタルを開き、現役で演奏活動をしたり音楽学校で指導している方々ばかりなので直接指導を受けることが出来た若者は一生の宝となったであろう。音楽に関しては素人の私だが、そばにいて審査員の人となりとその指導法を見ながら、本物に触

れること、直接、一流のアーティストと会うことが如何に心の琴線に触れることになるのかを体験できたことは至福の喜びであった。まさに一期一会である。

今でも、世界各地で活動しているアーティストが「リサイタルの売り上げの一部ですが」と言って義援金を送ってくれる。

被災地の復興事業は相変わらず遅々として進んでいないところがあり、複雑な心境で怒りさえ覚える時がある。その一方で、如何にして被災した人に寄り添いながらその心の傷を癒やすことができるのか。被災した人々のために何か芸術・文化活動を通してやれることはないのか。第5回仙台国際音楽コンクールは審査委員をはじめ、様々な人々に支えられて大成功裏に終了した。



仙台国際音楽コンクールの特徴は、市民ボランティアによる温かいホスピタリティに支えられた運営である。コンクールで先に進めなかった出場者に多くの演奏機会を提供したり、ホームステイのホストとなって交流を深めたり、これまでも数多くの出会いがあった。

今回のボランティアの方の中には自宅が津波で被災したにもかかわらず、これまでと同じように運営に参加してくれた方もいた。いや、仙台市民全員が被災者であった。震災後、すぐに被災地に入って演奏活動をしながら仮設住宅を回ってくれた演奏家もいた。自宅が津波に被災したにもかかわらず、みんなに感謝の気持ちを伝えたいと出場した地元のアーティストもいた。

今回のコンクールは仙台にとっても、私にとっても、そしてコンクールに関わったすべての人々にとって特別なコンクールであった。

交流コーナー

タイを想う

岡谷鋼機(株) 代表取締役副社長 川松 康吉 (K45)

40歳代後半の10年間に亘り駐在した東南アジアのタイは、私にとって第二の故郷です。ただ昨年後半に政府が国会に提出した、海外逃亡中のタクシン元首相の帰国を許すことに繋がる恩赦法案（結局廃案になったが）をめぐり政府側と反政府側との対立で揺れ動いており、反政府デモ隊により首都バンコクの官公庁および商業地区中心部が封鎖され既に死傷者も出ており、この原稿を書いている最中に政府から非常事態宣言が発令されるニュースが飛び込んできました。

タイでは過去にも幾度となく政治的対立、軍部によるクーデター、全国民から敬愛されている国王による仲介で双方が矛を収める、という構図が繰り返されてきました。記憶に新しいところでは赤色のTシャツを着た親タクシン（首相在任2001～2006年）派と黄色のTシャツを着た反タクシン派による対立、軍部のクーデター、黄色Tシャツ隊による空港の占拠、赤色Tシャツ隊によるバンコク中心部の封鎖、銃撃戦、等々で多くの死傷者がでた2008～2010年が思い起こされます。その前は本当に多数の死傷者を出した1992年のクーデターであり、日本でも新聞で国王の前で両者代表が跪いて和解する写真が大きく報道されたのを記憶されている方も多いと思います。

かつては陸・海・空軍の主導権争い、最近では一部の権力者による権力争いの様相で、経済にも大きな影響があり、被害者はまさにタイ国民です。今回は軍部もまだじっと静観しているようですが、このままでは軍部によるクーデターが起る可能性も十分にあり、一刻も早く両者で解決してほしいと願うばかりです。

2月2日に予定されている下院総選挙が行われるのかどうかも不確実で混沌とした状況ですが、タイが素晴らしい国であることに変わりはありません。インドシナ半島の中心に位置し、メナム（母なる川）と呼ばれるチャオプラヤ川が、源流であるピン川、ナーン川を含め国土の



中央を北から南に1,500km悠然と流れ、肥沃な大地を形成し国民に多くの恵みを与えています。

13世紀にスコタイ王朝を築いたのが始まりです。スコタイ王朝、山田長政が活躍したアユタヤ王朝、トンブリ王朝、と代々チャオプラヤ川ほとりに建設された王朝が統治する立憲君主国家です。現在は1782年から続くラタナコーシン王朝の第9代プミポン国王が統治しています。

タイ国民は王室を非常に大切に考えています。特にプミポン国王は国民の誰からも慕われ敬愛されており絶対的な存在です。全ての公共施設はもとより一般家庭や外国資本含む全ての企業にも国王陛下と女王陛下の写真が飾られています。またタイの国旗は紺が白と赤にはさまれた3色旗です。これは紺の王室を白の仏教と赤の国民・国家が守る構図です。国王への忠誠がこの国旗にも良く表れています。

人口は6,700万人。タイ族85%、中華系10%です。国土は日本の1.4倍ですが平地面積が80%と日本と違って非常に平坦な地形です。憲法で信仰の自由を保障していますが90%以上が仏教



徒で国旗にも表されているように仏教は国教に近い存在です。タイの仏教はスリランカを経由して伝わった上座部仏教（南方仏教）です。北方経由で中国や日本に伝わった大乘仏教に対し小乗仏教といわれた時代もありますが、厳格な修業を積んだ者のみが救われるという教えです。修業を積んだ僧侶に寄進、タイ語で『タン（積む）ブン（徳）』といいますが、をすることによって自分も救われると信じられています。タイ国民は非常に信心深く早朝の朝もやの中、黄衣をまとった托鉢中の僧侶に跪いて寄進をする多くの市民の姿はタイの原風景となっています。『ブン』は贈ることができる信じられています。出家修業することによって積んだブンを両親や子供や大切な人に贈ることができるため、ほとんどの一般男性が一生に一度は出家します。

タイの人々は家族を本当に大切にしています。年号はお釈迦様入滅からの仏歴を用いており、今年は仏歴2557年です。仏教以外には、イスラム教、キリスト教が信仰されており、特にマレーシアに接する南部4県はイスラム教徒が多く、独立を求め今なおタイ政府と戦っており、テロ行為も頻発しています。教育は日本と同じ6・3・3・4制をとっています。国立大学が30校、私立大学が68校あり、1917年設立のチュラロンコン大学やタマサート大学は世界的に有名な国立大学です。また多くの学生が海外留学をしており、政界、経済界の主要人物はほとんど留学経験者で占められています。

首都は英語表記でBangkok。本来のタイ語の名前は『クルンテープ・マハナコーン・アモンラッタナコーシン・マヒンタラー……』と長い長〜い名前です。通称は『クルンテープ』と呼ばれ『天使の都』という意味です。かつては『東洋のベニス』と謳われ、到る所に運河が張り巡らされた美しい水の都だったそうです。今では運河も埋め立てられ、地下鉄や高架電車が走り、高速道路網も整備され、高層ビルが林立する近代都市に大きく変貌し、当時の面影はありません。とはいえ一歩バンコクを出ればのんびりとした田舎の風景が広がり、ホッと一息つける感じがします。

医療も充実しています。最新医療機器を備えた病院も数多くあり、近隣の諸外国からも多くの患者が検査や治療にやってくるほどタイの医

療は認められています。特に手先が器用で外科手術、整形手術の評判が高いといわれています。

内閣は国王により任命された首相1名と35名以内の国務（副）大臣によって構成されており、国会は上院議員150名、下院議員480名で構成されています。2011年8月に誕生したインラック氏（タクシン元首相の妹）率いる現政権は2011年秋の日系企業にも多大な被害を与えた50年に一度という大洪水も乗り切り、比較的安定した運営を行っていましたが、前述の通り恩赦法案をめぐり昨年後半よりまたぞろ対立を激化させています。折角安定的に発展してきた経済も台無しとなり、タイのイメージも大きく損なうことになり、お互いが譲るところは譲り一刻も早くこの混乱を収拾する努力をしてもらいたい。

タイにはこのような愚行をやっている暇はないはずです。6月ごろから雨季に入り、雨季終盤の10月ごろには降り注いだ雨が溢れ出します。しかも海拔0mと言われるほど大地が平坦なため溢れた雨水がなかなか海に流れていかず、長期に滞留することになり非常に厄介です。昨年一部企業の工場内に水が入りましたが、幸いなことに生産活動に大きな支障をきたすまでには至りませんでした。タイ政権の最大の課題は政治対立ではなく『治水』にあるといっても過言ではありません。

タイの経済は就業者の40%が農業に、15%が製造業に従事する農業国ですが、昨今は自動車産業の伸張によって工業国へと転進しています。自動車メーカーは12社、Tear1と呼ばれる1次部品メーカーが635社、2次メーカーが1,700社存在しています。日本の大半の自動車メーカーが現地生産を行っており、市内を走る80%が日本車です。2013年度は2012年度とほぼ同数の246万台（世界第10位）を生産しました。生産台数のトップ2社は普通車部門ではトヨタ・ホンダ、ピックアップトラック部門ではトヨタ・いすゞという順になっています。日本企業の進出も多く、在バンコク日本人商工会議所への加盟企業は2013年末現在約1,500社を数え、日本大使館に在留届けを提出している日本人だけでも5万人を超えています。日本との結びつきは強く、日本人には非常に好意的です。

タイは『微笑みの国』といわれています。男女問わず目上の人への挨拶には、『ワイ』とい

いますが、必ず胸の前で両手を組み合わせ軽く会釈をします。特に女性がワイをしつつ微笑む仕種はとてもチャーミングです。これが『微笑みの国』といわれる所以です。国民性もおおらかで政治対決で流血を引き起こすことが信じられないくらいです。

タイ語に『マイペンライ』という素晴らしい言葉があります。日本語的には『問題ない、気にするな、何でもいいよ』という意味です。結婚式でも日本の結婚式のように礼服で出席している人もいれば、Tシャツにジーンズといういでたちの人もいます。なんでも構いません。昔は待ち合わせに遅れても、仕事でミスをして『マイペンライ』ですませたそうですが、昨今は時間も守り、起こしてしまったミスにもきちんと反省し、次には絶対起こさないという気持ちを持ち、一生懸命に取り組むように大きく変わっています。ただ生活の中には依然としてマイペンライ精神は存在しており、あまり細かい事に拘らず鷹揚とした生活を楽しんでいます。気候的に寒さをしのぐ必要もなく、主食の米や南国の美味しい果物も豊富に取れる環境がマイペンライ精神を育てているのかもしれません。



駐在時代の土日といえばゴルフ漬けの日々でした。タイには数えきれないほど多くの素晴らしいゴルフコースが何箇所もあります。バンコク周辺だけでも100コースくらいあるのではと思います。常夏でありフェアウエーも年中青々とし、やしの木が生い茂り木陰は涼しく一言では言い尽くせない素晴らしいさです。コースコンディションも日本と遜色ありません。世界の常識は1組4人プレーが原則ですが5人あるいは6人プレーOKのコースもあり、日本では経験できない楽しさです。プレー後のタイ古式マッサージもなかなかのもの。ゴルフで疲れた身体をほぐされ、ゆったりとした時の流れに浸る心地よさ。『至福』の一言に尽きます。

日本人御用達の飲食街タニヤ通り。单身生活だったこともあり、もっぱらタニヤで食事を取り偶にはカラオケに。タニヤの近くには西洋人が集う歓楽街パッボン通りがあり、日本人、西洋人と何となくすみわけされています。

北部にあるタイ第二の都市チェンマイは高層ビルも少なくタイの古き良き時代を色濃く残す町であり、退職後チェンマイで過ごす日本の方々も多い街です。有名な仏教寺院も数多く、バンコクよりも更に仏教が深く浸透しています。チェンマイ近郊にある、エイズ感染がもとで両親を亡くした大勢の子供たちの面倒を見ているバーンロムサイという施設は名取美和さんという日本人女性によって設立運営されています。資金面、精神面、労力面のご苦労を思うと本当に頭が下がります。

タイは観光立国と言われています。昨年は2,200万人の観光客が訪れました。プーケット、サムイ島、パタヤに代表されるコバルトブルーの海、南国の風、東南アジア独特の喧騒、唐辛子のきいたとても美味しいタイ料理。何をとっても心揺さぶられるタイが一刻も早く今回の騒乱に幕を引き、いつまでも活気に満ち溢れ、我々日本人のみならず世界中の人々が愛してやまない国であり続けてほしいと願うばかりです。



川松康吉氏の略歴

- 1970年3月 名古屋工業大学金属工学科卒業
- 1970年4月 岡谷鋼機株式会社入社
- 2001年3月 Siam Steel Service Center Public Co.,Ltd.取締役副社長
- 2001年5月 岡谷鋼機株式会社取締役
- 2005年5月 同社常務取締役
- 2007年5月 同社代表取締役専務取締役
- 2013年11月 同社代表取締役副社長